

「おいしい米づくり」を目指すなら 目標:食味値85以上

【おいしい米づくりのポイント】
品種にあった環境、栽培条件等を整え健康で食味の良い米を作ろう!

●栽培のポイント

- 土づくりで地力を高める
適正な地力が食味向上に影響するため
土壌診断結果に基づき土壌改良、施肥を行う。
(鉄分、ケイ酸分等の施用)
- 適期田植えの助行
登熟期の気温が食味に影響するため、早生品種
(コシヒカリ、ひとめぼれ)の早期田植えは
おこなわない。

●有効茎数の目安
○栽植密度ごとの必要茎数(収量540kg/10a)

品種	50株/坪 (株間22cm)	60株/坪 (株間18cm)	70株/坪 (株間15cm)
コシヒカリ	24本/株	20本/株	17本/株
ひとめぼれ			

※有効茎数の8割程度が確保できたら中干しを開始しよう。

○収量構成要素

品種	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒/穂)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g/千粒)
コシヒカリ	370本	80粒	82.9%	22.2g
ひとめぼれ	380本	75粒	82.9%	22.9g

※収量構成要素=穂数(本/㎡)×1穂粒数(粒/穂)×登熟歩合(%)×千粒重(g/千粒)

「多収穫生産」を目指すなら 目標:収量600kg/10a

【多収穫生産のポイント】
穂数の確保と登熟の向上により多収穫を目指す!

●必要茎数の確保
○収量600kg/10aを目指す場合の
栽植密度ごとの必要茎数

品種	50株/坪 (株間22cm)	60株/坪 (株間18cm)	70株/坪 (株間15cm)
コシヒカリ	27本/株	22本/株	19本/株
ひとめぼれ			
中生新千本	29本/株	24本/株	21本/株
あきろまん	25本/株	21本/株	18本/株

○収量600kg/10aを目指す場合の
収量構成要素

品種	穂数 (本/㎡)	1穂粒数 (粒/穂)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g/千粒)
コシヒカリ	400本	80粒	85%	22.2g
ひとめぼれ	410本	75粒	85%	22.9g
中生新千本	440本	70粒	85%	22.9g
あきろまん	380本	85粒	85%	22.0g

※収量構成要素=穂数(本/㎡)×1穂粒数(粒/穂)×登熟歩合(%)×千粒重(g/千粒)

●基本的に一発肥料ではなく分肥(基肥+穂肥)を実施する。
(生育、葉色に応じた施肥管理)

●水管理(間断かんがい、中干し等)を徹底し、根量を増やし、健全に維持する。

水がしと播種日の目安(例)

品種	水がし開始時期	播種時期	田植時期
早生種	4月10日	4月20日	5月15日
中生種	4月20日	4月30日	5月20日

●種子量に対する薬液・水量の目安

播種面積の目安	1反(10a)	2.5反(25a)	5反(50a)	1町(100a)
種子必要量	4kg	10kg	20kg	40kg
種子消毒時の水量	8リットル	20リットル	40リットル	80リットル
種子消毒剤 チカドフロアブル の量(200倍)	40ml	100ml	200ml	400ml

種子消毒

※消毒済み種子(ブルーに着色された羽)は
⑤水がしから始めてください。

- 塩水選**
塩水による不良もみを除去する。
- 水洗い**
水洗いで塩分を落とす。
網袋へ7分目程度に詰める。
(水切りを充分にすること)
- 消毒**
水20リットルに対しチカドフロアブル100ml(200倍液)を24時間浸漬効果安定させる為、10℃以上(15~20℃が最適)の水で浸漬する。
(乾燥10kg消費)
- 風乾**
24時間以上日陰で風乾
- 育苗管理**
育苗器に播種し、育苗管理を行う。
温度管理に十分留意する。
- 播種**
育苗器に播種し、カビ予防を行う。
(育苗器の消毒、カビ予防剤の散布)
- 芽だし**
30℃の温度でハト胸状態に芽だしを行う。
- 水がし**
30℃の温度でハト胸状態に芽だしを行う。
正しい水がし方法

生産基準と管理 (使用量10a当たりの目安)

品種	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月~3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
早生種 ひとめぼれ	<p>田植え: 5月5日~15日 (300m以上) / 5月15日~25日 (300m以下)</p> <p>【水管理】 深水(水温20℃以上) → 間断かんがい → 中干し(溝切りの実施) → 浅水管理 → 間断かんがい → 出穂期 → 稲刈り</p> <p>追肥: 5月15日~30日 ※出穂40~30日前頃</p> <p>穂肥: ※出穂18日前頃</p> <p>出穂後の水管理: 出穂後20日間は、水不足にならないように、飽水(足跡に水がある)で管理します。</p>																				
中生種 あきろまん	<p>田植え: 5月15日~30日</p> <p>【水管理】 深水(水温20℃以上) → 間断かんがい → 中干し(溝切りの実施) → 浅水管理 → 間断かんがい → 出穂期 → 稲刈り</p> <p>追肥: ※田植え後15~20日前頃</p> <p>穂肥: ※出穂24日前頃</p> <p>出穂後の水管理: 出穂後20日間は、水不足にならないように、飽水(足跡に水がある)で管理します。</p>																				

除草剤散布前後のポイント

除草剤の仕組み

一般的に水田に散布された除草剤は1週間ほどかけて土壌に吸着され、土壌表面に薬剤の「処理層」(およそ土壌表面から3cm程度の間)を作り、雑草の成長点と処理層に接触し雑草を枯らしたり、発芽させない仕組みです。

使用上の留意点

- 代かきは丁寧に均平を保つ。
土壌が均平でない場合、薬剤が多量に溜まり、葉害の原因になる場合があります。また、湛水深が不足すると効果ムラの原因となります。代かきを丁寧に、畦の補強をして水深をしっかりと保てる圃場環境の整備をしましょう。
- 雑草発生前の早めの散布を行いましょ!
- 除草剤散布後は、3~4日間は湛水状態を保ち補植は行わない。
効果を安定させるため、3~4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水や掛け流しを避けましょう。除草剤散布後の補植は水田内を歩行することにより処理層を壊し、効果が低下する原因となります。また、補植した苗の根が直接処理層に触れるため、葉害の原因となります。

除草剤の使い方

除草剤使用時期	田植前後日数	田植	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
低コスト(一発処理)	7																										
標準(体系処理)																											
高機能(体系処理) 雑草防除対策																											

肥料成分表(%)

肥料名	N(窒素)	P(リン酸)	K(加里)	備考
三次きんさい米基肥	10	14	12	有機30%
い〜ね403「改」	14	10	13	
早生ロング384	13	16	14	早生専用一発 Mg(苦土)2%
早生い〜ね755	17	15	15	早生専用一発(低コスト)
ネオベスト1号	12	12	12	
ピカイチ302	23	10	12	中干し専用一発
い〜ね75502	25	10	12	中干し専用一発(低コスト)
けい酸加里プレミアム34	0	0	20	ケイ酸34.0% 苦土4.0% ホウ素0.1%
い〜ね707「改」	17	0	17	
ネオベストSR-502	15	10	12	

中干しの目安

●小さい電撃ができる程度に繰り返す。
●中干し前に溝切りを行う。
●小さいひび割れが葉面に残り、足跡が残る程度。
(ヒビと並行し水がけを行う。)

葉色値の目安

※使用に当たっては、専用の葉色表を使用して下さい。

葉色値	1	2	3	4	5	6	7
-----	---	---	---	---	---	---	---

倒伏軽減

溝切り、中干し、間断かんがいで根を健全に保ち、節間の伸長を抑えるとともに、倒伏が予想される場合は倒伏軽減剤の使用も効果的です。

コシヒカリでの倒伏予想の目安 草丈の推移(出穂前日数)

出穂前日数	30日前	20日前	15日前	軽減剤の使用
	54cm以上	68cm以上	75cm以上	使用する

倒伏軽減剤使用時期の目安

●ロミカ粉剤 2~3kg
●ピピフル粉剤DL 100g/㎡~100ml
●ピピフル粉剤DL 4kg

●ロミカ粉剤
●ピピフル粉剤

後期除草剤(残草対策)

状況	品名	使用量(10a)	使用時期	使用方法
ヒエが残った場合	トドMFM1キロ粒剤	1kg	移植後14日~ノビエ5葉期(収穫50日前まで)	湛水散布又は無人航空機による散布
ヒエ以外が残った場合	トドMFM1キロ粒剤	200ml	移植後14日~ノビエ7葉期(収穫50日前まで)	湛水散布又は無人航空機による散布
ヒエと多年生雑草が残った場合	トドMFM1キロ粒剤	250g	移植後15日~ノビエ4葉期(収穫45日前まで)	湛水散布、湛水噴霧散布又は無人航空機による散布
	クリンチャージャンボ	1袋20kg(1kg)	移植後7日~ノビエ4葉期(収穫30日前まで)	水田に小袋装(1kg)のまま投げ入れる
	バサグラ粒剤	3~4kg	移植後15日~55日(収穫60日前まで)	湛水散布又はごく浅く湛水して散布
	レプラス1キロ粒剤	1kg	移植後14日~ノビエ4葉期(収穫60日前まで)	湛水散布又は無人航空機による散布
	アトドリ豆つぶ250	250g	移植後14日(稲5葉期以降)~ノビエ4葉期(収穫45日前まで)	湛水散布又は無人航空機による散布
	トドMFM1液剤	薬量1000ml(100倍液)	移植後15日~ノビエ5葉期(収穫50日前まで)	湛水散布又はごく浅く湛水して散布
クサナムイボクサが残った場合	クサナムイボクサ	薬量50ml~100ml(2000~1000倍液)	移植後30日~クサナムの草丈40cm、イボクサの葉長30cmまで(収穫60日前まで)	湛水散布又はごく浅く湛水して散布

水田からの濁水流出による河川等の汚濁防止について

水田からの濁り水が河川に流出すると、農業者にとって大切な水田の土や水などを失うだけでなく、河川が濁り、水生生物の圃場である若グケの生育を阻害するなど、環境にも負荷をかけることとなります。次のことを心がけ、環境にやさしい農業に取り組みましょう。

- 畦畔からの水漏れを防止しましょう!
- 代かき、田植え時に排水から濁水がでないよう確認しましょう!
- 浅水で代かきし、田植え前の落水を行わないようにしましょう!